

W-1-2

複数性と評価的意味

岩男 考哲（神戸市外国語大学）

1. はじめに

本発表では、以下のような「という」に複数・並列を示す形式（「など（と）いう」「（と）やらいう」「とかいう」）が名詞と（主）名詞をつなぐ表現を観察する¹。

- (1) 一枚岩の全体主義国家などというものは三流の文士や学者の頭の中にしか存在したことがない。
(BCCWJ: 関曠野「野蛮としてのイエ社会」)
- (2) みなさまご恒例の、アカシロ歌合戦とやらいう番組も一切見ることなく（しかし、見たくもないねえ、あんな馬鹿らしい番組は）ひたすら書齋に籠城して平家物語と対話するうちに年が明けました。
(<http://rymbow08.blogspot.com/2015/01/blog-post.html>)²
- (3) きみには、見えるようだな。その真実とかいうものが。
(BCCWJ: 麻耶雄嵩「翼ある闇」)

[確認]

これらは、「いう」が動作主をとれなかったり（1'）、活用が不可能であったりすること等からも、動詞として用いられているわけではないことが分かる。

- (1') *君が、全体主義国家などというものは……。
- (2') *アカシロ歌合戦とやらいわない番組も……。

【本発表で行うこと】

- (ア) いわゆる「評価的意味」を研究するにあたって、今後考察の対象となり得る形式にはどういったものがあるのか。それを本発表では特に引用形式に着目して考えてみたい。
- (イ) 本発表で提示する諸形式に評価的意味が見られるのだとしたら、その意味の発

¹ ただし、次のような実際に複数の要素を並べた連体節は今回は考察の対象から外す。

- (i) OSとかBIOSとかいう問題ではなく、全体的にその陰陽がおかしくなっているわけですか。
(BCCWJ: 東野司／「電腦セッション」)

また、「とかいう」は「とか+いう」という構成で、正確には「という」に並列・複数のマーカーを付した形式とは言えないが、本発表ではこの点は不問とする。

² 「（と）やらいう」は「とかいう」「など（と）いう」に比べ、見つかった例の数が少ないことをここに記しておく。

生理由はどのようにして説明し得るのか検討したい。

2. 先行研究

従来、評価的意味を表すとされる形式の中でも引用形式と関りのあるものとしては、「ときたら」や「といたら」が挙げられてきた（岩男（2019, 2021）、日本語記述文法研究会編（2009））。

- (4) うちの子ときたら、毎日どこほっつき歩いてるんだか。
- (5) あの店のパンの大きさといたら、日本中どこ探しても他に無いほどです。

こうした研究は、各引用形式が主題を提示するケースを考察対象としたもの。本発表では、前接する名詞が後接する名詞を各引用形式を介して修飾する表現に注目。なお、岩男（2021）において「とかいう」が評価を示す可能性が示唆されているが、本発表は他形式を含めてこの点を考察する試みということになる。

これまでの引用形式が名詞と名詞をつなぐ表現の研究は、両名詞の上位・下位関係に注目したり、主名詞の提示するカテゴリーに着目したりすることが主であった。

- (6) 鈴木という人
- (7) 佐藤選手は、右足骨折という悲劇に見舞われた。

（日本語記述文法研究会編 2008: 45）

本研究は、こうした修飾表現の研究に新たな観点を導入する可能性も有する。

3. 観察

本発表で考察する表現は、以下に見るように、各形式に前接する名詞に対するある種の評価を感じさせることがある（再掲）。

- (1) 一枚岩の全体主義国家などというものは三流の文士や学者の頭の中にしか存在したことがない。（BCCWJ: 関曠野「野蛮としてのイエ社会」）
- (2) みなさまご恒例の、アカシロ歌合戦とやらしい番組も一切見ることなく（しかし、見たくもないねえ、あんな馬鹿らしい番組は）ひたすら書齋に籠城して平家物語と対話するうちに年が明けました。
(<http://rymbow08.blogspot.com/2015/01/blog-post.html>)
- (3) きみには、視えるようだな。その真実とかいうものが。
(BCCWJ: 麻耶雄嵩「翼ある闇」)

これらの表現は、本研究で扱う形式が無くとも自然な表現として成立するが、その場合、

当該名詞（各形式の前接部）に対する「揶揄」のような低評価の意味合いが消える。

- (1'') 全体主義国家は三流の文士や学者の頭の中にしか存在したことがない。
- (2'') アカシロ歌合戦を見ることなく平家物語と対話するうちに年が明けました。
- (3') きみには、視えるようだな。真実が³。

このことから、「など（と）いう」「（と）やらいう」「とかいう」の諸形式は評価的読みに関与していることが分かる。

4. 考察

先に見た「評価的意味」はなぜ生じるのかを考察。

まず、上記形式は評価が読み取りにくい場合に用いられることもある。

【評価的意味が読み取りにくいケース】

「など（と）いう」

- (6) からだの作りが複雑なものになるほど、雄と雌は専門化され、雌雄異体となります。ではなぜ、こんな雌雄同体生物などというものがいるのでしょうか？

(BCCWJ: 長谷川眞理子「オスとメス=性の不思議」)

「（と）やらいう」

- (7) ……人間たちはこの風呂とやらいうものを殊の外大事にしているようだが……俺も体験してみる必要があるのだろうか

(<https://twitter.com/ohkinuko/status/1022102591595896833>)

「とかいう」

- (8) 主人が勤めていた小学校の訓導の一人で、結城とかいう先生が火つけ役だったそうです。

(BCCWJ: 高木彬光「仮面よ、さらば」)

その一方で、以下のような例の場合、(6)～(8)に比べると評価的意味を読み取りやすいと言える。

【評価的意味が読み取りやすいケース】

「など（と）いう」

- (9) 福田恆存は、松下論文を一つのベースとして、自己の憲法観・天皇観を述べる。その一つは、憲法などというものを通して天皇を見てはならないということである。

³ 例えば次のように引用符を付すことにより何らかの「評価」的な意味合いを感じさせることができる点と、今回考察した形式群に引用形式が用いられている点の関係についての考察も興味深い課題である。

(ii) きみには、視えるようだな。「真実」が。

現実には憲法どおりには動いていない。「憲法は現実にかかはらない。かかはるのはただその解釈だけである」という。

(BCCWJ: 石田圭介「戦後天皇論の軌跡」)

「(と) やらいう」

(10) 警察とやらいう自警団の顔色うかがってワクチン打たない首長や議員、ワクチン安全論を唱えるならさっさと打ちなさい!

(<https://note.com/kurodenwa0825/n/n4c901852f17e>)

「とかいう」

(11) 永田町とかいうところの町内会で有名な、政治家秘書杉山はどんなっちゃうの?

(BCCWJ: 柴田よしき「少女達がいた街」)

● (6) ~ (8) と (9) ~ (11) の違い

引用形式に前接する名詞の知識内での位置付けの差

【読み取りにくいケース】

当該の名前・ラベルだけを了解している状態であることの明示。その対象の属性に関する情報が不十分。対象が知識内に定着していない（他のラベルである可能性がある）ことを示す。並列・複数の形式を用いることで、当該のラベル以外のものがあり得る可能性を示唆。

※従来の引用形式を用いた連体修飾表現に見られる、相手が知らないと思われる対象を提示する際（「僕の知り合いに三野という男がいる」）や、自身の知識として定着しきれていない対象を提示する際（「その板垣という人は、今おいくつくらいなんですか？」）に引用形式が用いられる現象に通ずる。

【読み取りやすいケース】

既に指示対象を把握しており、裸の形で用いることが可能な状況で敢えて、「知らない」事物として扱う。

把握済みの名前・ラベルを「他の名前呼び得るもの」という態度を示す。

並列・複数の形式を用いることで「別の名前呼び得るもの」という態度の明示。

〈知っているはずの事物を知らないものとして扱う理由〉

(ウ) 知っていることを忘れていた (→未知扱い)

(エ) 今までの理解と異なる新たな捉え方をすることになった (→再定義／捉え直し⁴)

例) あの板垣 (?とかいう/??とやらいう/*などという⁵) 男は、案外優しいところがあるんだな。

⁴ 田窪 (2002)、丹羽 (2006) を参照。ただしこれらは、提題文研究の中で提示された概念である。

⁵ 今回は同列に扱う 3 形式間の差異については後で少し述べるが、更なる考察は今後の課題とする。

cf. あの板垣という男は、案外優しいところがあるんだな。

→このケースでは「という」の方が適しているか？

(オ) 定着した知識としての扱いを拒否 (→評価)

例) お前には見えるようだな, 真実 (とかいう / とやらいう / ??などという) のが.

付記. 3形式間の違いについて

これまでに見てきた3形式も全てが同じ性質というわけではない.

〈「などという」〉

・同じ「複数・並列+引用」であっても, 「などという」は他よりも言語記号を提示する引用の働きが強いか?

(12) 三野 (とかいう / *などという) 人が玄関で待っています.

(13) 板垣 (とかいう / などという) 人はここにはいません.

→非存在, つまり「板垣」は人を指示せず名前のみを指示するため

(13) は容認度アップ.

〈「(と) やらいう」〉

・「いう」を伴わずに, 「名詞+ (と) やら」で名詞的に使用される.

(14) 君には, 見えるようだな. 真実とやらが.

→ “語彙的” に評価的意味を表し得る!?

5. おわりに

[まとめ]

(カ) これらの3形式には評価的意味を読みとれる用法が存在する. (読み取れない用法も存在する)

(キ) 評価的意味が読み取りやすい場合, 引用形式に前接する名詞は既に話者が把握済みのものである.

(ク) 把握済みの事物を敢えて知らない事物として扱う (=理解したことを拒否する姿勢の明示) ことから評価的意味が生じると考えられる.

[なぜネガティブな評価なのか?]

(語彙的に) 明示しづらい評価であることに起因するか.

[これから行うべきこと]

(ケ) 「評価」の有無 (あるいは強弱) の測定手段【難問】

(コ) 提題形式も視野に入れた考察

・提題文にも類似した現象が見られる.

- (15) 死亡フラグって何？
- (16) 三野先生って，意外とお若いんですね。〈再定義／捉え直し〉
- (17) あの上司ときたら，自分の評価を気にしてばかりだ。〈評価〉

【参照文献】

- 岩男考哲（2019）『引用形式を含む文の諸相 ―叙述類型論に基づきながら―』くろしお出版。
- 岩男考哲（2021）「第3章 名詞と引用形式の接点に生じる諸現象」『名詞研究のこれまでとこれから』くろしお出版。
- 金水敏（1986）「名詞の指示について」『築島裕博士還暦記念国語学論集』明治書院。
- 田窪行則（2002）「談話における名詞の使用」野田尚志・益岡隆志・佐久間まゆみ・田窪行則『日本語の文法第4巻：複文と談話』岩波書店。
- 丹羽哲也（2006）『日本語の題目文』和泉書院。
- 日本語記述文法研究会編（2008）『現代日本語文法6 第11部複文』くろしお出版。
- 日本語記述文法研究会編（2009）『現代日本語文法5 第9部とりたて 第10部主題』くろしお出版。